

ません。これは無理かと思つていると、同行者のひとり、タヨトイが衣服を脱いで裸になると、木の上を渡つて行き、手早く枝を切りはらい、今度は川に飛び込みました。彼の歩いている様子を見たら、水は腰ぐらいまでしかありません。増水していく深いと思い込んでいましたが、浅瀬あさせだつたのでしょう。タヨトイが簡単に向こう岸へと渡り切るのを見て、私たちは皆、裸になり、丸太を渡つて川の半ばまで行き、その後は川の中を歩いて岸にたどり着きました。岸の草原で火をたき、体を温め、衣類を乾かしました。

石狩川の支流の美瑛川に注ぐ、ヲマクシベツ川、トウセシナイ川、ホロアツナイ川を過ぎて小山に登りましたが、この

辺りは暖地のようで、雪はほとんど解け、カタクリやフキノトウ、フクジユソウ、行者ニンニクなどの芽が出始めています。4キロほどでホロナイという小川に到着し、野宿をしました。その夜、フキノトウを摘んできて和え物にして食べましたが、本州のものとは違つて少しも苦くありませんでした。夜になつてキツネを1匹捕りました。

3月6日



フキノトウ

春の代表的な山菜。天ぷらにしたり、調味料ちょうみりょうとあえたりと食べ方はさまざま。



美瑛川

景勝地として知られ、「ブルーリバー」とも呼ばれている。